

シグマ研究委員会  
2年度第1回運営委員会議事録(案)

日時： 1990年4月13日(金) 13:30~17:30  
場所： 日本原子力研究所本部 第6会議室  
出席者： 中嶋(法政大)、北沢(東工大)、五十嵐(NEDAC)、瑞慶覧(日立)、  
石井、菊池、平岡(金子代理)、水本、長谷川(以上原研)  
幹事： 中川、中島(原研)  
オブザーバー： 松延(住友原工)

配布資料

1. 元年度第7回運営委員会議事録(案)とアクションリスト
2. 第28回NEANDC会合報告
3. 平成2年度シグマ研究委員会委員の交代

議事

1. 前回議事録確認

前回2月16日の議事録(配布資料1)を確認した。

2. NEANDC報告

菊池氏が配布資料2により英国AEA Harwellで3月26日~30日に開催された第28回NEA核データ委員会(NEANDC)の様子について次の通り報告した。

全体的に明るい話題は少なかった。NIST、Harwell、Bolognaのリニアックが停止されたことが報告された。ORNLからの安定濃縮同位元素の無償貸与は買い上げまたは有料貸与(年当り買取り価格の10%)に変更するとのDOEの決定に対し、ワシントンにこの決定を撤回するよう直接働きかけることを決めた。標準核分裂箔( $^{235}\text{U}$ )の保守管理のための国際的枠組みが必要である。JENDL-3、ENDB/B-VI、JEF-2が完成またはほぼ完成した。今後は3者で国際協力を行う。核構造データ評価の国際ネットワークから西独(A=80~100を分担)が脱落した。この穴は当面は米国が埋めるが、将来は他国の協力も必要である。米国NNDCは予算削減を理由にCINDA(中性子データの文献のコンピュータインデックス)エントリを実験値のあるものに限定することにした。中性子データの生産が低下している現状で、4センター体制が必要かとの問題提起が英国よりなされたが、今後検討することになった。CINDAに関しては、今後は本としては出版せず、コンピューターのオンラインで活用することになりそうである。西独ユーリッヒでの核データ国際会議(1991年5月)のプログラム編成方針を決定した。今後の専門家会議として20MeV以上の標準断面積(スウェーデン、1991年)、共分散データの評価とプロセス(米国または欧州、1992)、FP断面積(日本、1993)が提案された。NEANDCのマンデートが更新され、従来の測定、計算、評価に加え情報収集・配布をスコープに加えた。

3. ワーキンググループリーダー及び委員の交代

グループリーダーの変更及び委員について配布資料3に基づいて中島氏が各専門部会から次の通り提案があることを報告し承認された。

#### 退任

白方敬章（動燃）、中井洋太（レーザー濃縮技術研究組合）、上松幹夫（日本原燃サービス）

#### 加入

三田敏男（日立、FBR積分テストSWG）、石川真（動燃、FBR積分テストSWG）、有賀武夫（原研、PKAスペクトルSWG）、秦和夫（京大工、核融合炉ニュートロニクス積分テストSWG）、片倉純一（原研、核種生成WG、崩壊熱WG、核構造G）、山本宗也（東芝、LWR積分テストSWG）

#### ワーキンググループリーダーの交代

評価用データベースSWG	柴田恵一（原研）	→	中川庸雄（原研）
PKAスペクトルSWG	飯島俊吾（東芝）	→	川合將義（東芝）
遮蔽積分テストSWG	川合將義（東芝）	→	山野直樹（住友原工）

#### 4.平成2年度予算及びワーキンググループについて

菊池氏が平成2年度の委員会関係の予算について次の通り報告した。

動燃受託により委員会旅費の一部を賄っていたが、今年度から動燃受託がなくなった。その見合い分の旅費が増額されたのとシンポジウムの開催費が別途ついたので昨年度程度の会合は可能である。シンポジウム開催費には中国人1名分の旅費と滞在費が含まれている。スタートしたばかりのワーキンググループは重点的に会合を開いて活動を軌道に乗せてほしい。そうでないところも、活動にメリハリをつけてやってほしい。核構造評価グループの名前をENSDFグループに変更したい。グループリーダーと相談して決める。

#### 5.本委員会開催について

7月6日（金）に開催する。（その後原子力学会のプログラム編成会議がこの日開かれることになったので、7月13日（金）に本委員会を開催することに変更した。）トピックスとして4月23日～27日に開催されるPHYSOR '90の参加者にその報告をして貰う。テーマとしては、積分テストと核燃料サイクルに関連した核データ（オメガ計画を含めて）2つをとりあげる。原子力学会春の年会の（核データ・炉物理）合同特別会合でのパネルディスカッションでとり挙げた核データの将来計画について委員の意見を聞く。その資料としてパネルディスカッションの議事録を使うことにする。

#### 6.核データシンポジウム（研究会）について

実行委員長は井頭氏（東工大）に今年もお願いすることになった。実行委員、日程及びテーマについては次回の運営委員会に井頭氏に提案して貰う。中国から1名招待する。他の東南アジア諸国にも連絡する。

#### 7.地域センターについて

平岡氏から懸案の地域センター設立についてコンセンサスを作っておく必要があるとの指摘があり、資料を揃えて次回運営委員会で議論することとした。

## 8.その他

(1)NEA Data Bank 委員会が5月に開催されるが、Data Bank の活動項目ごとのプライオリティについての意見を菊池氏まで寄せてほしい。原案は配布資料2にあるのでそれを参考にしてほしい。

(2)次回は6月22日(金)に行うことにした。開催時間は実験的に次回は2:00~とする。オブザーバーは井頭氏(東工大)、松延氏(住友原工)、飯島氏(東芝)とする。

### Action List

No.	担当者	内 容	期 限
1	事務局	ワーキンググループの予定開催数を調査する。	次回
2	井頭	核データシンポジウムの実行委員会を開き、日程及びテーマを決定する。	次回
3	事務局	原子力学会春の年会のパネルディスカッションの議事録を作る	次回
4	菊池	核構造グループの名前を変えることについて喜多尾氏と相談する。	次回
5	事務局	地域センターに関する資料を作る。	次回